

開講年次・時期	1年通年	授業回数	30回	時間数	60時間	必修・選択	必修	授業形態	講義	単位数	4単位
---------	------	------	-----	-----	------	-------	----	------	----	-----	-----

科目コード	NC210	科目名	介護の基本 I	担当者名	芳賀 砂智子
授業の概要	介護の歴史や介護福祉の基本となる理念を背景に、介護を必要とする人の尊厳を尊重しながら、地域を基盤とした生活(暮らし)の要素を分析的に理解し、生活の継続性を支援するための仕組みを理解する。併せて、その人のニーズを理解する視点を身につけ、介護福祉の専門職としての能力と態度を養う。				
科目の到達目標	①介護ニーズ及び介護福祉を取り巻く状況を社会的な課題として捉え、尊厳の保持や自立支援という介護福祉の基本となる理念を理解する。 ②地域や施設。在宅の場や、介護予防や看取り、災害時等の場面や状況における介護福祉士の役割と機能を理解する。③介護福祉士の倫理・専門性を理解する。 ④ICFの視点に基づくアセスメントを理解し、エンパワメントの視点から自立に向けた介護について理解する。				
DPの観点	④協調性 ⑤社会性 ⑥専門知識・技能 ⑨主体性				
授業時間外学修(予習・復習)	テキストの専門用語の予習・復習を行う。それぞれ30分程度行うことが望ましい。				
フィードバックの方法	コミュニケーションカードに疑問等を附してもらい、授業終わりまたは次の授業で詳しくフィードバックする。				
単位認定の要件	15回の授業終了後に行う期末試験の成績と、授業中の学習意欲及び学習態度を単位の認定要件とする。				
評価の方法・割合(%)	期末試験(60%)、勉学意欲及び学習態度(20%)、小テスト・提出物(20%)				
履修上の注意事項	介護福祉士資格取得必須科目 30分以上の遅刻は欠席とする。遅刻3回で欠席1回とする。				

回数	予定	実施	テーマ・内容	観点	方法
1			授業概要の説明、介護の成り立ち	⑤⑥⑨	コミュニケーションカード
2			介護の概念の変遷①(説明・演習)	⑤⑥⑨	コミュニケーションカード
3			介護の概念の変遷②(発表)	⑤⑥⑨	コミュニケーションカード
4			介護福祉の理念	⑤⑥⑨	コミュニケーションカード
5			尊厳を支える介護	⑤⑥⑨	コミュニケーションカード
6			自立を支える介護	⑤⑥⑨	コミュニケーションカード
7			地域包括ケアシステム	⑤⑥⑨	コミュニケーションカード
8			介護予防、医療的ケア	⑤⑥⑨	コミュニケーションカード
9			災害時の支援	⑤⑥⑨	コミュニケーションカード
10			社会福祉士及び介護福祉士法	⑤⑥⑨	コミュニケーションカード
11			社会福祉士及び介護福祉士法に関連する諸規定	⑤⑥⑨	コミュニケーションカード
12			介護福祉士養成教育の始まり	⑤⑥⑨	コミュニケーションカード
13			介護福祉士の役割	⑤⑥⑨	コミュニケーションカード
14			日本介護福祉士会	⑤⑥⑨	コミュニケーションカード
15			介護福祉士に関わる諸団体	⑤⑥⑨	コミュニケーションカード
16			介護福祉士の倫理	⑤⑥⑨	コミュニケーションカード
17			倫理的判断が必要な場合	⑤⑥⑨	コミュニケーションカード
18			自立支援	⑤⑥⑨	コミュニケーションカード
19			自立支援とICF(国際生活機能分類)	⑤⑥⑨	コミュニケーションカード
20			ICF(国際生活機能分類)	⑤⑥⑨	コミュニケーションカード
21			高齢者のストレングス	⑤⑥⑨	コミュニケーションカード
22			リハビリテーション	⑤⑥⑨	コミュニケーションカード
23			リハビリテーションにおける自立	⑤⑥⑨	コミュニケーションカード
24			リハビリテーションにおける介護福祉士の役割	⑤⑥⑨	コミュニケーションカード
25			介護予防の概念	⑤⑥⑨	コミュニケーションカード
26			高齢者の身体的特性と介護予防	⑤⑥⑨	コミュニケーションカード
27			自立支援と介護予防	⑤⑥⑨	コミュニケーションカード
28			介護予防における介護福祉士の役割	⑤⑥⑨	コミュニケーションカード
29			【まとめ】1～15までのまとめを行う	⑤⑥⑨	コミュニケーションカード
30			【まとめ】16～30までのまとめを行う	⑤⑥⑨	コミュニケーションカード
期末試験			これまでの学習した内容の振り返りを行う		

使用テキスト	『最新・介護福祉士養成講座』第3巻「介護の基本 I」中央法規出版 介護福祉士養成講座編集委員会
参考文献 参考URL	その都度資料を配布する。
備考	進行状況により、授業のテーマ・内容は変更になる場合がある。

DPの観点	①聴く力②表現力③柔軟性④協調性⑤社会性⑥専門知識・技能⑦思考力⑧実践力⑨主体性⑩問題解決力
-------	--

授業の自己評価	
---------	--